

# 第三回ブラジル長期留学報告書

国際バイオビジネス学科 4年 竹中奏絵

ブラジルに来てから丸 7 か月経ち、帰国までの期間が過ごした期間よりも短くなった。前回の報告書以降に合った大きな出来事を時系列で書いていく。

## 短期留学生訪問 8月19日～26日

昨年自分が参加したプログラムが今年も行われた。まさか自分が受け入れ側になるとは考えていなかったため、とても不思議な感覚だった。昨年よりも多い 6 名の学生が参加し、一週間のサンパウロ滞在を手伝った。授業を受けるだけでなく、農大の学生のプレゼンがあったことで昨年より ESALQ の学生との関わりを多く持っていたように感じた。

やはり中にはこの経験を長期留学に繋がりたいという学生もおおり、それについての話をし、今でも来年度の長期留学の申し込みが始まったことにより連絡を取る学生もいる。よく言われたのがブラジル留学について女性の意見が聞けることが良いということであった。また、こちらの学生も 3 年続けて農大から学生が来ているため、次は何人来るのかという話題になることもしばしばある。この留学が自分のものだけではなく、次へと繋がるものだと嬉しく、また自分の励みにもなる。

## 農大 OB 高木様 実習 9月4日～10日

一週間学校が休みの期間があったため OB である高木様のところにお世話になった。実習報告書を提出しているため多くは書かないが、普段住むピラシカバもサンパウロ州であり、高木様が住むピエダージもサンパウロ州である。しかし、同じ州だがピラシカバではサトウキビが育つ気候で、ピエダージは果樹や野菜が育つ気候だった。州の中でさえ気候が異なることがとても面白かった。

## ESALQ 留学生昼食会 9月15日

ESALQ に留学している他国の生徒と自国の料理を持ち込みの昼食会を行った。7 月後半に行われた summer school に参加していた 2 学期からのコロンビア、ベルギー、フランス留学生をはじめ、ペルー、チリの学生が参加した。この会に参加した留学生の 7 割はフランス人だった。もちろんアジア圏からは日本だけで、やはり距離的には離れているものの、ESALQ に日系人の先生がいること、USP の学生の 10% が日系人ということも関係するのではないと思う。

ブラジル留学生の会参加 11 月 11 日

第 5 回ブラジル留学生の会に参加した。これは Facebook、ニッケイ新聞を読んでいた時に第 4 回の会について知り、連絡しこの会に参加した。サンパウロ市内に留学生が基本的に実行委員として活動しており、参加者はサンパウロ市内をはじめ、リオデジャネイロやカンピーナスなど今回は周辺地域の学生の参加が多かったようだ。社会人の方は駐在員としてこちらでブラジル人と仕事をされている方々ですごく興味深いお話ばかりだった。普段はブラジル人の友人からブラジルについての話を聞くことばかりなので、日本人の考え方から見るブラジル、外から見る日本について意見を交換できたことが自分の考えも深めることに繋がったと感じる。この会では社会人の話を聞くだけでなく、学生と社会人でグループディスカッションも行った。このディスカッションの際グループリーダーを務めた。目前に就活が控えていることを強く感じた。

またこの会に参加したことで、同じようにブラジルに留学している学生とも知り合うことが出来た。社会人だけでなく、他地域の留学生と話してみても様々な理由で、それぞれの目的をもって留学に来ていた。多くはポルトガル語専攻の学生だったが、農工大の院生もいた。ポルトガル語専攻の学生がポルトガル語を話しているところを見るとやはり、2、3 年語学を学んでから来ているだけあり、ほぼ初心者出来ている自分と比べるとなかつた。この会が続くようであれば、今後ブラジル留学する農大生にもぜひ参加してもらいたいと思う。

この他にも 2 年前国際バイオビジネス学科実地研修の際お世話になったホームステイ先の家族と会ったり、ESALQ のシェアハウス対抗のスポーツ大会、USP の学部ごとのスポーツ大会が行われたり、USP の本キャンパスである Butanta を見学、休日にはシュラスコをするなど学生間の知り合いが増えた。

ブラジルでは様々な祝日があるのだが、日本とは違い祝日は公立学校、スーパーも短縮営業で基本的に休むことを大切にする。高木様のところに実習に行った期間も祝日に伴い学校が丸々一週間休みになったためであった。都市化が進むサンパウロ市内の外資系の店でさえ短縮営業である。

日本にいたときは朝 8 時前には外出し、夜も 10 時 11 時に帰る日のほうが多かったように思う。やらなければいけないことがあるのはこちらの生活でも同じだが、今の生活のほうがしっかり休みを取り、何が必要か考え、時間がゆっくり流れるように感じる。日本は深夜でさえコンビニで買い物が出来、祝日だからと言って店が大幅に変わることもない。とても便利だが、その裏で働いている人がいるからこそ得られているサービスということだ。

こちらの生活に慣れれば慣れるほど、多くの違いを目にし、どちらが良いのか考える。それぞれの文化に合ったものだが、片方の物差しでは良し悪しを測れないことが多くあると感じる。ブラジル滞在もいよいよ終盤であり、多くの学生と関わるという点では学期が終わるまでとなる。学期が終わり次第足を伸ばし様々な場所を訪れ、まだ見ていないこと知れていないことを吸収して帰国したいと思う。



短期留学生が日本文化を発表した際のもの



留学生の昼食会の様子



第5回ブラジル留学生の会①



第5回ブラジル留学生の会②